Panasonic

工事説明書

VL-MWN350KL　VL-V521L

モニター親機

品番 VL-MWN350KL（ブイエル エムダブリューエヌ ケイエル）

電源コード式

工事をされる方へ

■この工事説明書をよくお読みのうえ、正しく設置してください。
特に「安全上のご注意」は、設置前に必ずお読みいただき、安全に設置してください。
正しく設置されなかった場合などの製品の故障および事故について当社は、その責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

■電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。

■既設の配線を使用する場合は「工事について」を必ずお読みください。

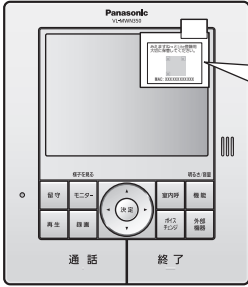
■別売の機器を増設する場合は、「配線系統図」（☞ 裏面）を確認してください。

■電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。

■工事終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。

■本書では、モニター親機を「ドアホン親機」、カメラ玄関子機を「ドアホン」と表記しています。

付属品を確認する

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

みえますねっとLite登録用のQRコードシールについて

ドアホン親機には、下記のQRコードシールがはり付けられています。

QRコードシール

「みえますねっとLite」サービス(有料)の利用申し込み時に使用します。
ドアホン親機からはがして、取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

■ サービスを利用するとき
携帯電話でこのQRコードを読み取って、申し込みを行います。サービスの概要や申し込みは
（☞ 取扱説明書「ドアホン親機編」34、35ページ）

パナソニック コミュニケーションズ株式会社
コミュニケーションネットワークカンパニー
〒812-8531　福岡市博多区美野島４丁目１番62号

PNQW1333ZA SM0408MT0

安全上のご注意 （必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は絵表示の一例です）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

■分解・修理・改造しない

火災・感電の原因になります。

分解禁止

●修理は販売店へご相談ください。

■AC100 V の電源直結工事は資格を持つ者が行う

感電の原因になります。

●電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。

■雷のときは配線工事をしない

火災・感電の原因になります。

禁止

■電源(AC100 V)を入れたまま配線工事をしない

感電の原因になります。

禁止

■機器の内部には絶対に触れない（高電圧あり）

感電の原因になります。

接触禁止

■指定以外の端子に電源(AC100 V)を接続しない

ショートして火災・感電の原因になります。

禁止

■ドアホン親機は水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない

火災・感電の原因になります。

禁止

■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100 V 以外での使用はしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

禁止

■質量に耐える指定の方法で取り付ける

ゆるみやはずれで落下し、事故の原因になります。

■チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100 V が通電されていないことを確認する

そのまま使用すると、感電の原因になります。

●販売店へご相談ください。

⚠ 注意

■屋外配線する場合は、雷サージ保護のため、避雷器を取り付けるか、保護管を使用して埋設配線する

感電の原因になることがあります。

■土中埋設配線する場合は、保護管を使用する

使用しないと、感電の原因になることがあります。

■土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない

絶縁劣化により、感電の原因になることがあります。

禁止

設置上のお願い

設置場所について

こんなところには設置しない （故障や通話不良などの原因になります）

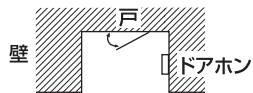
- 振動、衝撃のあるところ
- 硫化水素、リン、アンモニア、硫黄、炭素、酸、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
- 反響の多いところ
- テレビ、電子レンジ、パソコン、エアコンなどの電気製品や、給湯器用リモコン（インターホン機能付き）の近く

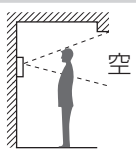
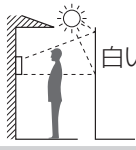
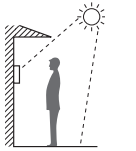
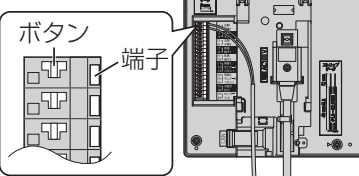
ドアホン親機の設置について

- **本機は、2.4 GHz（ギガヘルツ）の周波数帯の電波を利用しています。取扱説明書「ドアホン親機編」12～14ページで、電波についてのご注意をよくお読みのうえ、設置してください。**
- **強電解地域では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。**
- **ドアホンから約 5 m 以上離して設置してください。**
- **本体の上下左右に 20 cm 以上の空間をとってください。**（誤動作や通話の途切れ防止）
- **本体を埋め込まないでください。**
- **VL-SWN350KLの場合のみ：別売のドアホンアダプターで、ドアホン親機と電話/ファクス親機（パナソニック製のドアホン対応機種）を接続するときは、ドアホン親機をドアホンアダプターと電話/ファクス親機からそれぞれ 1 m 以上※離してください。**

※ 接続する電話/ファクス親機が 2.4 GHzの電波を使用する機種の場合は、親機同士の電波干渉を防ぐため、ドアホン親機と電話/ファクス親機の間は約 3 m以上離してください。ただし、子機（VL-W606）をドアホン親機と電話/ファクス親機の両方に登録してご使用になる場合は除きます。（このときは親機同士の電波は干渉しません）

ドアホンの設置について

- 背面に水などが直接かからないようにしてください。
- 逆光になる場所への設置は避けてください。（来訪者の顔が暗く映り、識別しにくくなります）
- 下図のように反響の多い場所では、「ピー」という音が鳴ることがあります。

〈逆光になる場所〉

背景に空の占める割合の大きい玄関

正面に、直射日光が反射する白壁がある玄関

直射日光があたるような、明るい玄関

工事について

- 電源について：必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続する。
  (1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）に容易に手が届くこと。
  (2) 3 mm 以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
  ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線 2 線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値（直流ループ抵抗）を測定のうえ、下記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値	DC500 V にて 1 MΩ 以上
線路抵抗値	直流抵抗計にてループ抵抗 10 Ω 以内（総長 100 m 以内で）

- 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
  - 使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁（電源線とその他の信号配線材の間）を設ける。
  - 金属ボックスを使用する場合は D 種接地を行う。
  - 配線材は AC600 V 以上の絶縁電線を使用する。
- ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。（金属管は必ず大地アースをすること）
- AC100 V 以上の電力線（電灯線）とは 1 m 以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。
- ドアホン親機の信号線接続端子は、速結端子になっているため以下の方法での結線を行う。（接続できる線種などについては☞「線種と配線距離について」）

<ドアホン親機背面>

配線材を挿入する場合
- 配線材の被ふくを約 9 mm むく。
- ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を確実に端子に挿入する。

配線材を抜く場合
- ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を引き抜く。

- 誤配線、ショートなどがないことを確認後、ドアホン親機の電源を入れる。

工事について(つづき)

線種と配線距離について

(下表の記載以外で使用すると、動作不良の原因になります)

配線区間	線　種	配線距離
ドアホン親機 〜 ドアホン	インターホン用平行 2 線式ケーブル 単芯線(mm):φ0.65 〜φ0.8	100 m 以内

● 別売の機器を接続するとき

配線区間	線　種	配線距離
ドアホン親機 〜 インターホン※	インターホン用平行 2 線式ケーブル 単芯線(mm):φ0.65 〜φ0.8	100 m 以内
ドアホン親機 〜 ドアホンアダプター※	インターホン用平行 2 線式ケーブル (4 線式も可) 単芯線(mm):φ0.65 〜φ0.8	
ドアホン親機 〜 テレコントロール用エアコンアダプタ	単芯線(mm):φ0.65 〜φ0.9	30 m 以内
ドアホン親機 〜 A 接点出力端子に接続可能な機器	ドアホン親機接続端子の許容線種 単芯線(mm):φ0.65 〜φ0.8	接続する機器の仕様に従う
ドアホン親機 〜 センサー入力端子に接続可能な機器	ドアホン親機接続端子の許容線種 単芯線(mm):φ0.65 〜φ0.8	50 m 以内
ドアホン親機 〜 テレビ、レコーダー、センサーカメラ	カテゴリー 5(100Base-TX)に適合したLANケーブル	100 m 以内

※VL-SWN350KLをご使用の場合のみ

ドアホンの取り付けについて

(取り付ける場所や位置に応じて下記の機器をご利用ください)

● エントランスポール:松下電工(株)製　(2008年6月現在)

品　名	品　番
アーキッシュポール	CTP151S、CTP152S、CTP153S、CTP154S
ユーロポール	CTP1415B/RE/DE/HE/YE/ME/GE
ムッドポール	CTP1311MD/ML、CTP1313MD/ML
エックスポール	CTP1209B/G/ME/HE、CTP1211B/G/ME/HE、CTP1213B/G/ME/HE

● サインポスト:松下電工(株)製　(2008年6月現在)

形　式	品　番
SP 型	CTB470、CTB471、CTB470B、CTB471B
SS 型	CTB570、CTB571、CTB570B、CTB571B
NM 型	CTB3731、CTB3731B
GS 型	CTB560B/H、CTB561B/H、CTB562B/H、CTB5622B/H、CTB5623B/H

● カメラ角度調節台:当社製　(2008年6月現在)

品　番	備　考	
VL-1301A	縦用	補正角度:上下方向 6°
VL-1302A	横用	補正角度:左右方向 30°

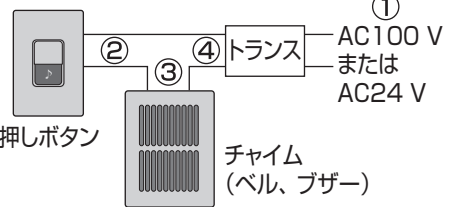
ドアホンの取付角度を変えることができます。詳しくは、カメラ角度調節台の説明書をお読みください。

<サインポストにドアホンを取り付けるとき>

➡ サインポストに取り付けられている呼出ボタン(ユニット部)を外し、ドアホン本体(露出ケースを除く部分)を取り付けてください。

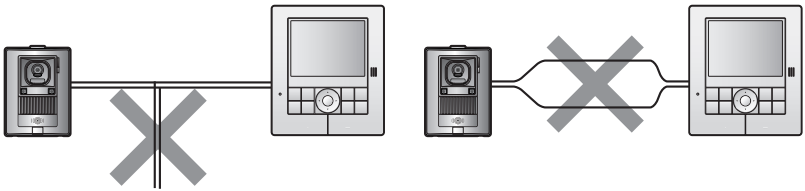
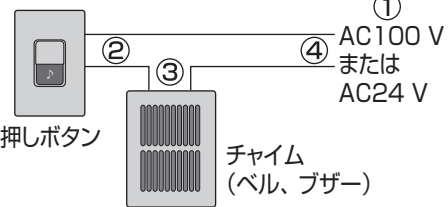
➡ サインポストの蛍光灯回路(AC100 V)とは別のケーブルを使用し、新しく配線してください。

➡ カメラ角度調節台(別売品)は、使用できません。

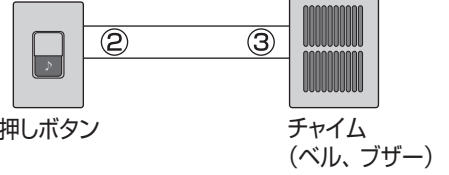
工事について(つづき)

既設(チャイム/ベル/ブザー/テレビドアホン/音声ドアホン)の配線を使用して本機を取り付けるとき

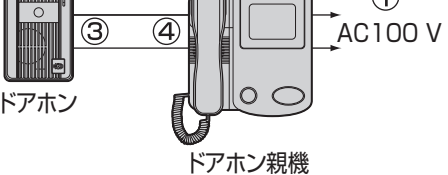
● 既設の配線に電源(AC100 V、24 Vなど)が接続されている可能性があるため、必ず電気工事士の資格を持つ方が工事をしてください。(誤って接続すると故障の原因になります)

● 工事の際は、まず既設配線の電源を切り、配線材の線種(φ0.65 mmまたはφ0.8 mm)と配線距離を確認してから、下記の手順で配線してください。

- 本書の「線種と配線距離について」の内容に合わない場合、正常に動作しないことがあります。このときは配線材の取り替えが必要です。
  - 線種がφ1.6 mmのときは、φ0.65 mmまたはφ0.8 mmの配線材に取り替える
  - 線種が「より線」のときは、棒型圧着端子を取り付けてから接続する
  - (☞ 裏面「ドアホン親機を取り付ける」の手順3)
- ドアホン親機とドアホン間に不要な配線材があるときは、取り除くか新たに配線してください。また、下記のように配線材を分岐したり、極端にばらしたりしないでください。正常に動作しないことがあります。

■ 既設の配線例と取り付け手順

乾電池の交換が不要なチャイムなど (A)

① トランスの電源線(AC100 V または 24 V)を外す※
② 押しボタンの配線(2 芯)を外し、ドアホンに接続する
③ チャイムの配線(2 芯)を外し、両先端をつなぐ(ショートする)
④ 押しボタンとチャイムからの配線(2 芯)をトランスから外し、ドアホン親機の速結端子に接続する
⑤ ドアホン親機の電源(AC100 V)を入れる

乾電池の交換が不要なチャイムなど (B)

① 電源線(AC100 V または 24 V)を外す※
② 押しボタンの配線(2 芯)を外し、ドアホンに接続する
③ チャイムの配線(2 芯)を外し、両先端をつなぐ(ショートする)
④ 押しボタンとチャイムからの配線(2 芯)をドアホン親機の速結端子に接続する
⑤ ドアホン親機の電源(AC100 V)を入れる

※ 外した電源線を、ドアホン親機の速結端子に接続しないでください。

乾電池式のチャイム

① チャイムの乾電池を取り外す
② 押しボタンの配線(2 芯)を外し、ドアホンに接続する
③ チャイムの配線(2 芯)を外し、ドアホン親機の速結端子に接続する
④ ドアホン親機の電源(AC100 V)を入れる

テレビドアホンや音声ドアホン

① 既設のドアホン親機の電源線(AC100 V)を外す
② 既設のドアホン親機とドアホンを取り外す※
③ 既設のドアホンの配線(2 芯)を新しいドアホンに接続する
④ 既設のドアホン親機の配線(2 芯)を新しいドアホン親機の速結端子に接続する
⑤ ドアホン親機の電源(AC100 V)を入れる

※ 既設のドアホン親機を取り外す前に、新しいドアホンを接続しないでください。

■ 配線完了図 (裏面の配線系統図に従って正しく接続してください)

配線系統図

配線系統図および「線種と配線距離について」（☞ 表面）に従って正しく配線してください。

※1 インターホンを接続する場合は、ドアホン親機で「拡張機器」の設定を「インターホン」に変更する必要があります。設定のしかたは（☞ 取扱説明書「ドアホン親機編」47ページ）

※2 テレコントロール用エアコンアダプタに接続した機器を操作（ON/OFF）するには、設定が必要です。設定のしかたは（☞ 取扱説明書「ドアホン親機編」54ページ）

※3 （社）日本電機工業会（JEMA）の標準HA端子をもつ端末機器を指します。

※4 ● **下記の定格に適応した機器を接続してください。並列接続はできません。**
（故障の原因になります）
• 定格負荷：AC、DC 24 V / 0.3 A 以下　• 最小適用負荷：DC 5 V / 1 mA
● ドアホンや別売のカメラの呼び出しに応答すると、A接点出力はOFFになります。
応答しなかった場合、A接点出力は約30秒間ONになります。
（動作の詳細は、接続機器の説明書をご覧ください）

※5 下記の定格に適応した機器を接続してください。
• 入力方式：無電圧メイク接点　• 端子間開放電圧：DC 7 V以下
• 検出確定時間：0.1秒以上　• 接点抵抗値：メイク時 500 Ω以下
• 端子間短絡電流：5 mA以下　ブレイク時 5 kΩ以上

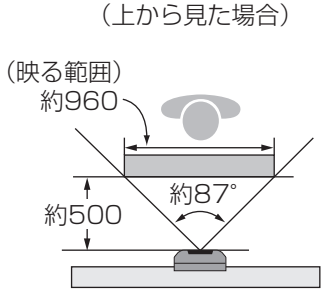
※6 連動型の住宅用火災警報器を本機に接続するためのアダプタです。
➡ アダプタ経由で火災警報器を接続する場合は、アダプタおよび接続する火災警報器の説明書をご覧ください。

ドアホンを取り付ける

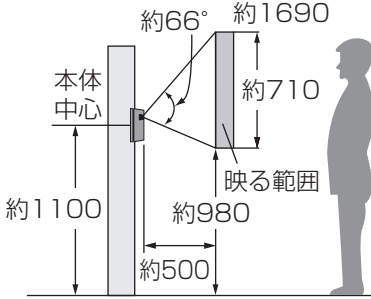
ドアホンの取り付け位置とカメラに映る範囲

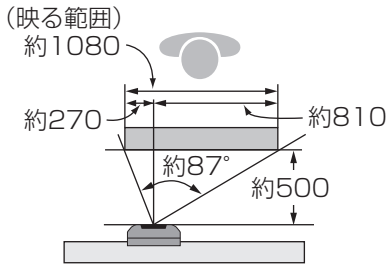
下記はカメラから約 500 mm 離れた場合の数値です。（単位：mm）

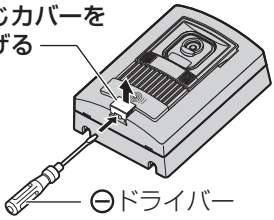
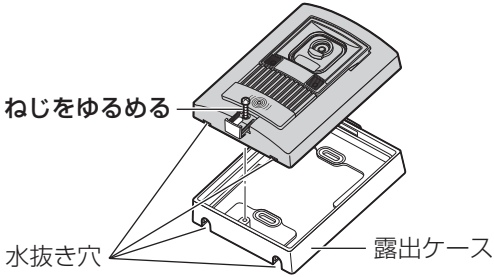
■ カメラ角度 0°（正面）〈お買い上げ時〉

標準位置(本体中心までの高さが約1450 mm)に設置する場合

下図のように、標準位置より低い位置や、左または右に離れた位置に設置する場合には、カメラ角度調節レバーで、映る範囲を調節できます。（☞ 下記、手順 3）

■ カメラ角度 15°（上向き）

本体中心までの高さが約1100 mmに設置する場合

■ カメラ角度 15°（左右）※

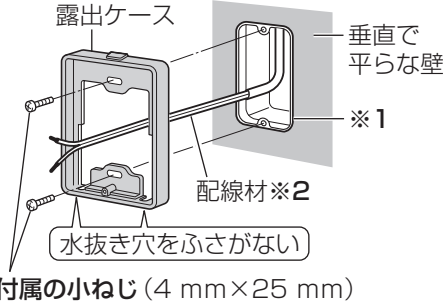
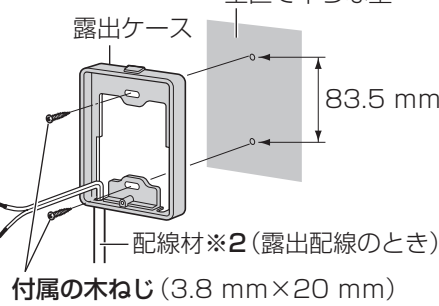
正面より左または右に離れた位置に設置する場合(例：左向き 15°)

※ 上向き15°の場合、左または右向きに約7°まで

1 露出ケースを外す

2 露出ケースを壁面に確実に取り付ける

■ スイッチボックスの場合

付属の小ねじ（4 mm×25 mm）

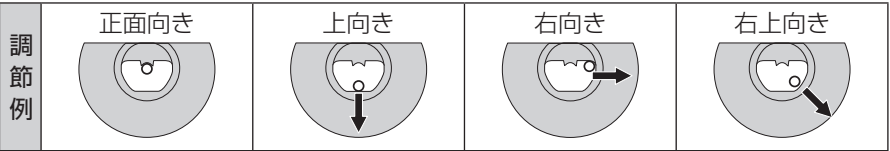
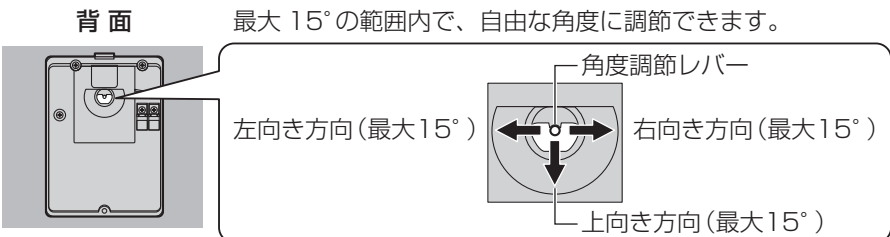
■ 壁の場合

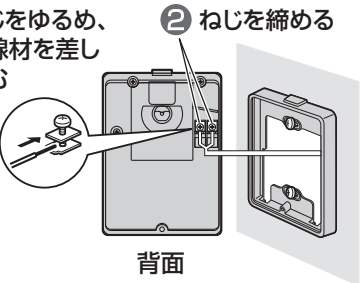
付属の木ねじ（3.8 mm×20 mm）

※1 JIS 1 個用スイッチボックス(カバー付き)
- カバーなしには取り付けられません。
- 底面に穴(スリット)がない場合は、水抜きのための穴を開けてください。

※2 既設の配線を使用する場合、電源線(AC100 V など)の可能性があります。
そのときは、電源を取り除いてください。（☞ 表面「既設の配線例と取り付け手順」）

3 カメラレンズの角度を調節する

背 面　最大 15°の範囲内で、自由な角度に調節できます。

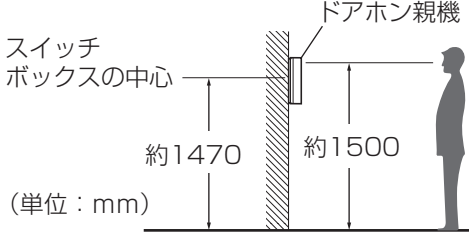
調節例	正面向き	上向き	右向き	右上向き

- 「左向き」、「左上向き」にも調節できます。
- 「左上向き」または「右上向き」に設定すると、画像がひずむことがあります。

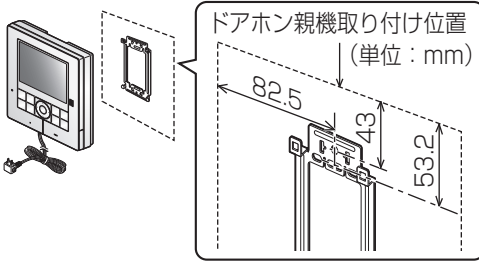
4 配線材を接続し、本体を取り付け、固定する

ドアホン親機を取り付ける

ドアホン親機の取り付け位置(高さ)

よくご利用になる方の目の高さにモニター画面の中心がくるよう取り付けてください。

（例）床から約 1500 mm の高さに画面の中心がくるように取り付けるとき

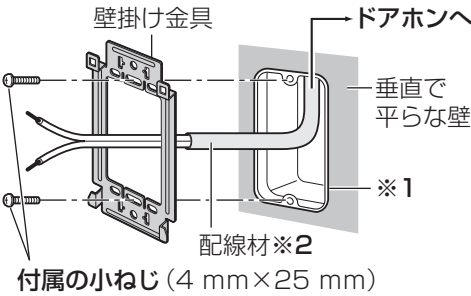
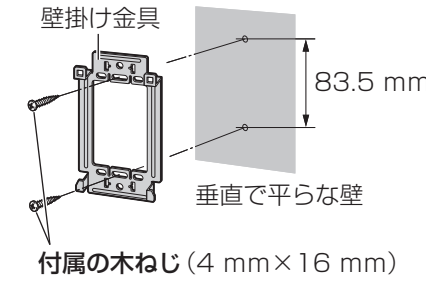
（単位：mm）

壁掛け金具の取り付け位置

ドアホン親機の取り付け位置が指定されている場合、壁掛け金具は下図の位置に取り付けてください。

1 付属の壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける

■ スイッチボックスの場合

付属の小ねじ（4 mm×25 mm）

■ 壁の場合

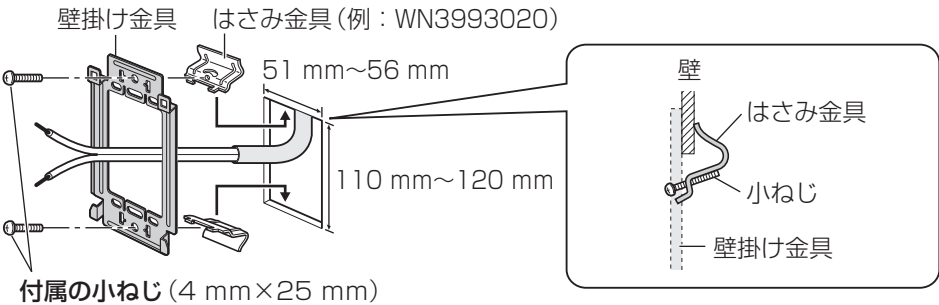
付属の木ねじ（4 mm×16 mm）

※1 JIS 1 個用スイッチボックス(カバー付き)
- カバーなしには取り付けられません。
- 電源線とその他の信号配線材などが混在する場合は、絶縁セパレーターを取り付けてください。

※2 既設の配線を使用する場合、電源線(AC100 V など)の可能性があります。
そのときは、電源を取り除いてください。（☞ 表面「既設の配線例と取り付け手順」）

■ パネル壁の場合

石こうボードなどの壁に下図のように穴をあけ、右記のはさみ金具を使って取り付けてください。

はさみ金具：松下電工(株)製

品 番	対 象 壁
WN3990K	3 mm ～ 10 mm 厚の合板
WN3993020	7 mm ～ 18 mm 厚の石こうボード

2 [AC100 V 電源線を直結する場合のみ]

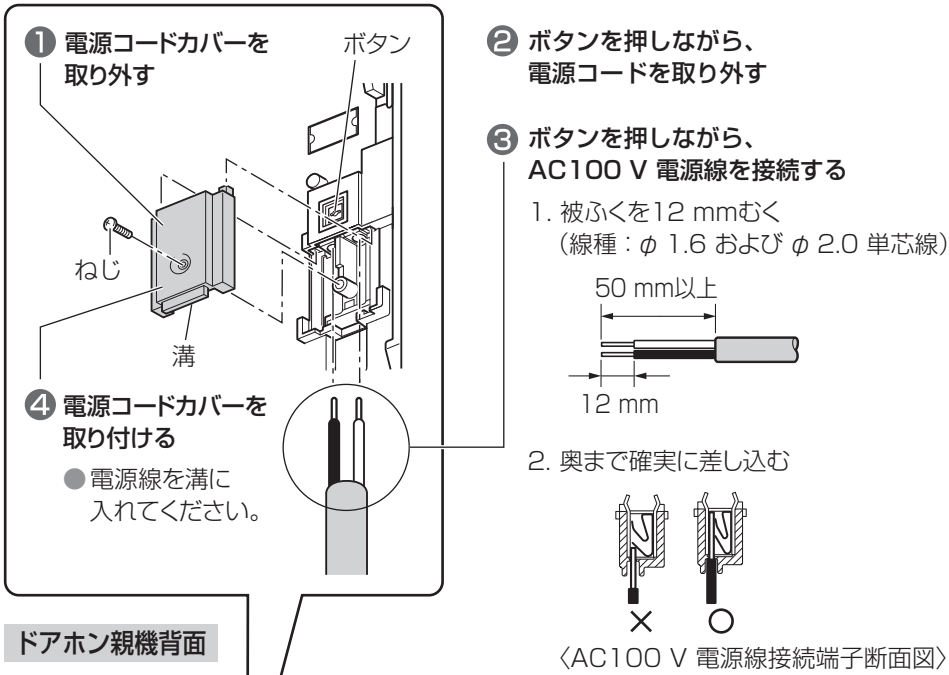
電源線を接続する　**電気工事士の資格が必要**

❷ ボタンを押しながら、電源コードを取り外す

❸ ボタンを押しながら、AC100 V 電源線を接続する

1. 被ふくを12 mmむく
（線種：φ 1.6 および φ 2.0 単芯線）

2. 奥まで確実に差し込む

〈AC100 V 電源線接続端子断面図〉

⚠ 注意

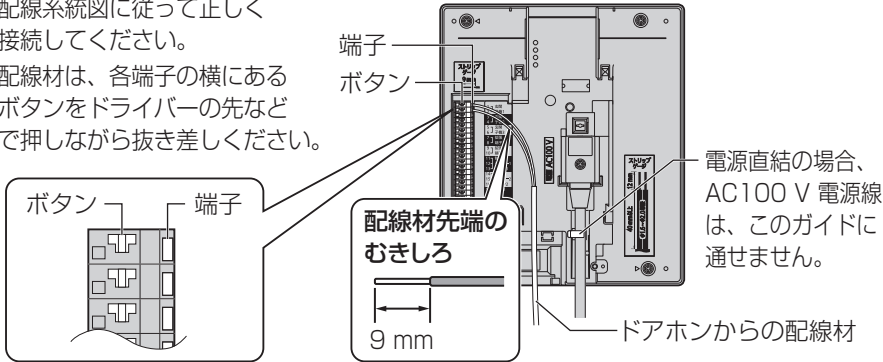
奥まで確実に差し込む

差し込みが不完全な場合、発熱の原因になることがあります。

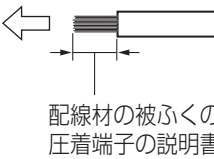
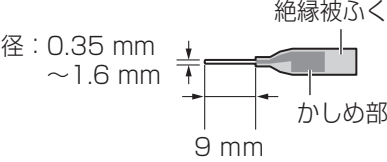
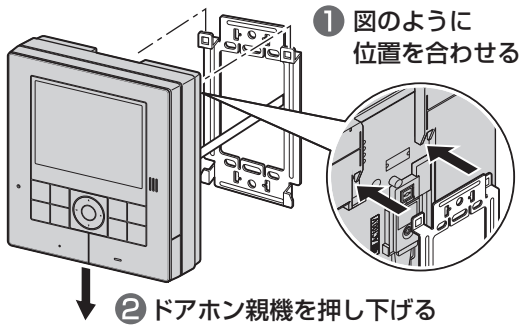
3 配線材を接続する

● 電源線(AC100 V など)は、絶対に接続しないでください。故障の原因になります。
(☞ 表面「既設の配線例と取り付け手順」)

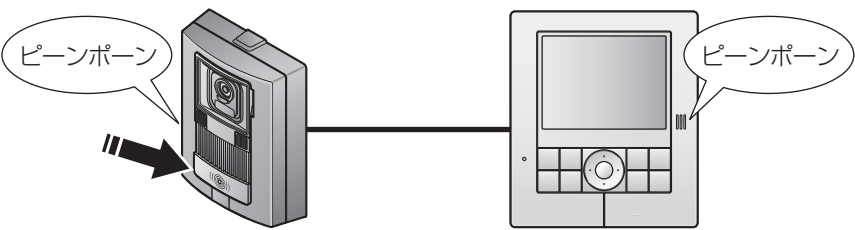
● 配線系統図に従って正しく接続してください。

● 配線材は、各端子の横にあるボタンをドライバーの先などで押しながら抜き差しください。

配線材の線種が「より線」のとき

より確実に結線するため、下図の寸法の棒型圧着端子(市販品)を取り付けてから接続してください。また、隣の端子と接触(ショート)しないように、絶縁被ふく式のタイプをご使用ください。

● 市販の圧着端子の入手が困難な場合は、電気工事店にご相談ください。

4 ドアホン親機を取り付ける

5 [電源プラグで使用する場合のみ]

電源プラグのキャップを外して、コンセント(AC100 V)に差し込む

6 ドアホンの呼出ボタンを押し、ドアホン親機で呼出音が鳴り、映像が映ることを確認する

ドアホン親機が動作しないとき

正しく配線されていない可能性があります。次のことを確認してください。

● ドアホン側、ドアホン親機側の端子に、それぞれ配線材が確実に接続されていますか?

● 正しく接続したのにドアホン親機が鳴らない場合、壁内での配線がおかしくなっている可能性があります。下記の手順で、確認してください。

①いったんドアホンを外してドアホン親機の近くに持っていく
②短い配線材などを使って下図のように直接つなぐ
③再度、動作を確認する
➡ 正常に動作すれば、壁内の配線に問題があります。
配線を確認してください。